

2023年4月3日

2023年度 NHK グループ合同入局・入社式 会長講話



本日はNHKへの入局、そして各団体への入社おめでとうございます。今年度は、NHKグループとして279人の新しい仲間を迎えることができました。グループの代表として皆さんを心から歓迎します。

皆さんの入局・入社にあたって、私からは2つお伝えしたいことがあります。これから皆さんがNHKグループの一員として仕事をしていく上で、ずっと大切にしていってほしいことです。

まず1つ目として、NHKグループの仕事は社会にとって非常に重要だということを、皆さんと共有したいと思います。皆さんは、NHKが果たすべき役割についてどう捉えているでしょうか。

NHKが拠って立つ放送法第1条には、放送の目的として、放送の効用を国民にあまねく普及し、表現の自由を確保し、健全な民主主義の発達に資するということが謳われています。公共放送であるNHKは、この放送法で定められた目的の達成に向けて、視聴者・国民の皆さまの信頼や期待に応えていく必要があります。

そのために私は、視聴者の皆さまの日々の判断の拠りどころとなるような、公平・公正で確かな情報を間断なくお届けすることや、質の高いエンターテインメントを提供することによって、視聴者の皆さまの生活がより豊かで文化的なものになるよう貢献していくことと考えています。

その上で、平時はもちろんですが、災害や緊急時など「いざというとき」には、視聴者・国民の生命や財産を守るために、NHKは一層その役割を果たさなければならないと思っています。

私は以前、日本銀行に勤めていました。日銀は金融、NHKはメディアと業種は異なりますが、自主自律、独立性が必要なこと、そして「いざというとき」に確実に役割を果たすという点では共通点があると思います。

2001年9月11日に起きたニューヨークの同時多発テロ事件はご存知かと思えます。ハイジャックされた旅客機がニューヨークの世界貿易センタービルに突入し、2つのビルが倒壊するなど世界に大きな衝撃をもたらした事件です。

当時、私は日銀でシステムの統括責任者だったので、この事件が起こったときに真っ先に思い浮かんだのがアメリカの金融当局の責任者の顔でした。金融システムは全世界に繋がるネットワークですから、決して止まらないようにするのが責任者に課せられた使命です。無事だろうかとメールをしましたが、なかなか返事がありません。心配していたところ、しばらくたって返信があり「システムが無事立ち上がった。我々は献身的に努力しているので大丈夫だ」と書かれていました。彼は、世界中が大混乱に陥った大きな事件の最中に、金融システムを守るという使命のために奮闘し、必死でその役割を果たしていたのです。私はこのメールを見て安心するとともに、大いに感銘を受けた記憶があります。

NHKの仕事も同じだと思います。いざという時には、国民の生命や生活を守るため、困難な状況にあっても献身的に力を尽くさなければなりません。公共放送・公共メディアの一員として高い使命感を持ち、ともに頑張っていく決意を、この場で皆さんと共有しておきたいと思っています。

さて、2つ目の大事な点です。NHKの使命達成に向けた責任の重さについてお話ししましたが、その一方でお願いしたいのは、自分の命や生活、人生を大切にして仕事をしたい、ということです。皆さんはNHKグループの大事な仲間です。皆さん1人ひとりが健康でいきいきと働くことができこそ、NHKも役割を果たすことができます。どうかそのことを忘れないでください。

皆さんは世の中に貢献したい、役に立ちたいという思いからNHKグループを志した人が多いと思いますが、最初のうちは加減がわからず、使命感から頑張りすぎてしまうことがあるかもしれません。しかし少しでも心身に不調を感じたら、遠慮なく上司や同僚など周囲に相談してください。休むときにはしっかりと休んで、体調を万全にしておくことが何より大切です。

以上お伝えした2つの点は相反することかもしれません。しかし、そのバランスをうまくとっていくことが、これからの長い社会人生活において何より重要ですので、この機会にしっかりと心に刻んでおいてください。

皆さんはこれから、それぞれの職場でさまざまな仕事に取り組むこととなりますが、最初のうちは、いま自分がやっている業務にどんな意義があるのだろうと疑問に思うことがあるかもしれません。ですが、すべての業務には意味があります。

目の前にある業務に一つ一つ誠実に向き合っていけば、その業務が組織全体の中でどのような役割を果たし、どのように社会に貢献しているのか、徐々につながりが見えてくるようになるはずです。

どうしてもわからないことや疑問に思うことがあれば、周りには豊富な経験を積んだ上司や先輩がいますので、ひとりで悩まずに何でも積極的に話しかけてみてください。きっと答えが得られるはずです。とは言え、若いうちには失敗することもあります。私もたくさんの失敗をしました。恥ずかしいですが私の失敗談を一つ、ご紹介します。

日銀時代に、総理大臣官邸で日銀総裁が出席する会議に同行して、議事録を取るという仕事を任されたことがありました。朝食の時間帯にこの会議が開かれる予定だったのですが、会議の前日に上司から急ぎの仕事を命じられました。必死に取り組み、夜遅くに終わらせて満足して帰宅したのですが、そのせいか次の日の朝、いつも通り日銀本店の自分のオフィスに行ってしまったのです。

日銀に着いてから、官邸の会議に行くのを完全に忘れていたことに気が付きましたが、当時は携帯電話もないので総裁に連絡のしようもありません。これはもう辞職ものだと思いきや、後ろからポンポンと肩を叩かれました。

気が付くと総裁が後ろに立っていて、「君の代わりにメモをとっておいたよ」と議事録を渡されました。私の代わりに、総裁自らメモを取ってくれていたのです。怒られなかった分、余計に深く反省して二度と同じ失敗をしないようにしようと心に固く誓った記憶があります。

皆さんも責任感を持ってほしいのですが、多少の失敗をしても気にしすぎる必要はありません。必ずフォローをしてくれる人がいるはずです。そして、失敗したときは、同じことを繰り返さないようにすることが肝心です。とはいえ世の中そう簡単ではなく、もう二度と誤るまいとガチガチになるあまり、大抵の場合2回目の失敗をしてしまうものです。どうすれば良いかという、その時3回目はもう決してしないと、気持ちを強く引き締めることです。2回まではいい、けれども同じ失敗を3回は繰り返さないこと。それを忘れずに、何事も積極的にチャレンジしていきましょう。

いま世の中には、インターネット上のサービスをはじめ数え切れないほど多くのコンテンツやサービスが溢れています。そうした中で、視聴者・国民の皆さまにNHKのコンテンツやサービスを使ってもらい、「役に立った」「あって良かった」と感じていただく必要があります。放送という限られた世界だけのことを考えていれば良かったこれまでと比べて、はるかに厳しい環境にさらされていくこととなりますが、NHKには、冒頭にお伝えしたような明確な公共的使命があります。その使命の達成のためにできること、やらなければいけないことはまだまだたくさんあります。それだけでなく、より多くの可能性が残されているはずです。

新たに仲間に加わった皆さんには、これからのNHKのためにイノベーションを起こしてもらいたいのです。皆さんが起爆剤となって、斬新な発想で、これまでにない新しい取り組みを生み出して欲しいと思っています。そうした取り組みが、NHKグループの大きな力になります。

今年はテレビ放送が始まって70年になります。また2年後の2025年には、ラジオ放送が始まって100年という大きな節目を迎えます。NHKが次の世紀を乗り切っていくためには、若い皆さんの力が絶対に必要です。

活躍を大いに期待しています。頑張ってください。

(以上)